

スタディツアーを終えて 陽子

初めてワンドロップのスタディツアーに参加させていただいたのが、4年前。その後コロナで2年間は行けず、昨年今年と続けての参加です。佐渡に住んでいる私は、普段のワンドロップの活動イベントにも参加せず、このスタディツアーの準備すら一緒にすることなく、自分の楽しみのためだけに参加させていただいています。そんな私ですが、今回は60日のビザを取得し、ワンドロップのみなさんがツアーを終えて帰国した後のバングラデシュにとどまり、今もなおワンドロップ小学校で毎日子どもたちから元気をもらい続けています。

1月29日に日本を出発し、いつもお世話になっているタリクさんの家に着いたのは翌日の早朝でしたが、30日から早速学校へ。今回のみなさんのツアーは短く、その間に恒例の運動会・入学式・卒業式とそのリハーサルです。その合間に、カレンダー作りなどのアート授業。慌ただしくスケジュールをこなしていきました。本当にみなさんと一緒にツアーはあっという間でしたが、このバングラデシュの現状をまじまじと思い知らされたことが多々ありました。

学校に来て1番に思ったことは、生徒数が少ない。

4年前に初めてツアーに参加した時は、各クラスほぼ20人の満員御礼状態だったはず。途中で来れなくなる子がいるのは仕方ないこととはわかっているけど、あまりにも少ないのではないのでしょうか。コロナ禍で学校に来れなかった時期もあり、それぞれの家庭も大変な時期だったことでしょうか。学校に来たくても、家庭の事情で来れない子が多くいます。家庭の事情もそれぞれでしょう。単純にお金がないだけでは済まされない現状が見られます。子どもも働かなくては生活できない。親がいない子どもの世話を子どもがしなくてはならない。家庭の事情に子どもが犠牲になってしまう背景には、教育がそれほど必要と思っていない大人も多いのかもしれない。

また生徒が減った理由に、他の宗教学校に転校した子も見受けられます。他の学校に行ける財力がある家庭はそれで良いと思います。今回新入生も少なく、単にこの地域で対象年齢の子が少なかったのか、それとも地域の生活レベルが多少アップして、他の学校に行かせることが出来ているのか。その辺は私にはわかりませんが、本当にこのワンドロップ小学校が必要な子どもが学校に集まって、その子に十分な教育が行き届けば良いなと心から思います。

またツアー中は、先生たちの指導について、多くの話し合いがありました。休んでいる生徒にどう対応しているのか。家庭状況をどの程度把握出来ているのか。卒業した生徒たちのその後の様子は知っているのか。正直なところ、本当に家族状況まで理解して個別な対応は出来てないのではと思っていましたが、その辺は大丈夫な様子です。家庭訪問まで出来なくても、家族に連絡をしている様子です。生徒が少ない分、先生も目が届いているのではないのでしょうか。

それにしても、子どもたちは元気です。朝早くからグラウンドで遊び、大きな声で寄ってきます。給食もしっかり食べています。こんな小さい体でどれだけ食べるのってくらいおかわりして食べます。家で食べれていないからでしょうが、私の3倍は食べているのでしょうか。たくさん食べているのを見てると安心します。

私のバングラデシュ滞在も残り3週間ほどです。私の今回の長期滞在の目的は、最低のベンガル語を習得して子どもたちと会話すること。ですが、この3週間の滞中で、すでに挫折しています。子どもた

ちとは、心で会話してます。(良いこと言うなあ。)言葉の進展がない私ですが、今回は先生の自宅に遊びに行かせてもらったりと、今まで見れなかったみんなの生活を知ることが出来ました。やはり Bangladesh の人たちはフレンドリーです。鬱陶しいほどのおもてなしを遠慮なく受けています。

Bangladesh の皆さんに感謝。そして、Bangladesh で色々な体験をさせてくださっている ワンドロップにも感謝感謝です。今から、すでに来年のツアーが楽しみです。

今回は、支援の難しさも思い知らされたツアーでもありましたが、ワンドロップとしてできる限りのことを今後も続けていきたいと思います。

最後にふと思ったこと…この学校に来ている子どものことしか知り得ることはできませんが、この周囲の村にはこの無償で授業が受けられ、給食も食べられる ワンドロップ 小学校にすら来れずにいる子どもはどれだけいるのだろうかと思いました。